

## リノベーション実習における学生作品の実現

環境デザイン学科における実践教育の記録

### REALIZATION OF STUDENT WORKS FROM THE RENOVATION DESIGN STUDIO Practical Education in the Department of Environmental Design

川北 健雄 芸術工学部環境デザイン学科 教授

花田 佳明 名誉教授、京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系 特任教授

Takeo KAWAKITA Department of Environmental Design, School of Arts and Design, Professor

Yoshiaki HANADA Professor Emeritus / Project Professor, Faculty of Design and Architecture,  
Kyoto Institute of Technology

#### 要旨

神戸芸術工科大学環境デザイン学科では、3年次後期の実習科目を専門分野別の選択必修科目としている。その中の「住居・インテリアデザイン総合実習」（2014年度～2016年度）および「リノベーション総合実習」（2017年度以降）では、この10年間、学科教員への受託研究の依頼主である神戸市の不動産事業者（大和船舶土地株式会社）の協力を得て、実習課題の対象となる改修予定物件の提供を受けてきた。さらに、優秀かつ実現可能な提案がなされた場合には、それをもとに実施設計を行い、実際の空間として実現してきた。

実現された作品については、竣工の都度、グッドデザイン賞に応募しており、これまでに実現した7つの作品のうち、6つが受賞、残る1作品も応募中で1次審査を通過、という快挙を達成している。

そこで本稿では、2014年度から2023年度までの10年間の当該実習課題の成果である学生作品について、実際に改修工事を行い実現に至った7作品、実現候補となったが惜しくも実現に至らなかった2作品、および実現について検討中の最新の1作品を含めた10の学生作品を対象として、各年度の課題概要、学生による提案内容、および実施設計にあたっての調整作業等について、全体像を整理して報告する。

#### Summary

At the Department of Environmental Design of Kobe Design University, the practical training course in renovation design has received support from a local real estate company, which provides properties to be renovated as real projects. When an outstanding and feasible proposal is presented, it is realized as an actual space.

Out of the seven works realized so far, six have won Good Design Awards, and the remaining one is currently under consideration, demonstrating the quality of the education provided.

This paper aims to organize and report on the overall picture of student works over the ten years from the 2014 to 2023 academic years. It includes seven realized works, two works that were close to realization, and one latest work currently under consideration. The report covers the outline of each year's assignment, the content of proposals by students, and the adjustments made for realization.

## 1. 学生作品の実現を前提とした実習課題を行うに至った経緯と実施体制の説明

神戸芸術工科大学環境デザイン学科では、3年次後期の実習科目を専門分野別の選択必修科目としている。その中の「住居・インテリアデザイン総合実習」（2014年度～2016年度）および「リノベーション総合実習」（2017年度以降）では、2014年度以降、学科教員への受託研究の依頼主である不動産事業者（大和船舶土地株式会社）の協力を得て、実習課題の対象となる改修予定物件の提供を受けてきた。優秀かつ実現可能な提案がなされた場合には、それをもとに実施設計を行い、実際の空間として実現してきた。

授業としては、既存の建物や構築物を題材とし、その新しい用途や入居者・入居テナントを具体的に想定した上で、対象とする建物および周辺環境の価値を高め、何らかの意味で社会に影響をおよぼすリノベーションの方法について学ぶことを目標としている。また、空間構成、仕上げ材料、各所ディテール、家具に及ぶ詳細な設計をおこなうことにより、内部空間を中心としたデザインのために必要な具体的知識、設計手法、プレゼンテーション技法等も習得することをめざしている。

そこで、本稿では、2014年度から2023年度までの10年間の当該実習課題について、実現候補となった学生作品および実際に改修工事を行い実現に至った作品について、それらの経緯と概要について報告する。

## 2. 本報告の対象とする学生作品

本稿では、表1に示す10の学生作品について紹介する。これらのうち、7作品が実現に至り、2作品は実現に至らず、1作品は実現に向けて検討中である。以降、それぞれの概要を説明する。

### 2-1) 作品番号01：2014年度課題作品

実習課題の優秀作を実現した、最初の事例である。

#### 2-1-1) 課題概要

課題タイトル：「賃貸マンションの住戸リノベーション」

指導教員：専任／花田佳明・小菅瑠香 非常勤講師／笹岡周平（ワサビ）・島田陽（タトアーキテクト）

期間：2014年9月23日～12月16日

#### ①対象建物

リノベーションを行う対象の建物は、神戸市兵庫区に建つマンションである。

表1 学生作品一覧

共通事項：授業名はすべて「リノベーション総合実習」（3年後期、選択必修）

上段課題情報 下段G賞情報	授業年度	課題提出時タイトル	学生の学籍番号と氏名	授業担当教員（非常勤講師）	掲載PRAXIS* （課題作品として）
	G賞応募年	グッドデザイン賞（G賞）応募タイトル	神戸芸術工科大学チーム記載名	実施設計	備考
01	2014年度	tiny space	12E0051久木楓	花田、小菅、（笹岡周平、島田陽）	PRAXIS2015
	G2015	都会で暮らす私のための小さくて大きな「秘密基地」	久木楓、花田佳明、川北健雄	有限会社ランドサット（安田利宏）	
02	2015年度	すみごち	13E0024坂上みなみ	花田、（畑友洋、小池志保子）	PRAXIS2016
	G2016	n/f LDK：へやのかずは私がきめるのよ！	坂上みなみ、花田佳明、川北健雄	有限会社ランドサット（安田利宏）	
03	2016年度	PLACES	14E0104山門久晃	花田、（魚谷繁礼、小池志保子）	PRAXIS2017
	G2018	石垣の上に建つ鉄骨の家	山門久晃、花田佳明、川北健雄	有限会社ランドサット（安田利宏）	
04	2017年度	滲み	15E0002足立明日香	花田、（榊原節子、今津修平）	PRAXIS2018
	G2018	光の粒と暮らす箱	足立明日香、花田佳明、川北健雄	COCCA（今津修平、北川浩明）	
05	2018年度	じんむ食道	16E0022紺谷和弥	花田、（榊原節子、今津修平）	PRAXIS2019
	G2020	神撫町キッチン	紺谷和弥、花田佳明、川北健雄	COCCA（今津修平、北川浩明）	
06	2019年度	仄のすみか	17E0026末藤真央	花田、（榊原節子、今津修平）	PRAXIS2020
	G2021	あいだ（隙）のあいだ（間）	末藤真央、花田佳明、川北健雄	COCCA（今津修平、北川浩明）	↑掲載は2番目
07	2020年度	ウチの中の外	18E0051大和明日香	花田、（今津康夫、今津修平）	PRAXIS2021
				実現せず	
08	2021年度	緑合の日常	19E0059森川明花	花田、（今津康夫、今津修平）	PRAXIS2022
				実現せず	
09	2022年度	緑いろどり	20E0209河部花梨	川北、（今津康夫、今津修平）	PRAXIS2023
	G2024	創造拠点としてのスタジオ住居	河部花梨、川北健雄	文化工学研究所（北川浩明）	
10	2023年度	torch	21E0011大山遥	川北、（今津康夫、今津修平）	PRAXIS2024
				実現検討中	

\*PRAXISは、環境デザイン学科の作品集の名称

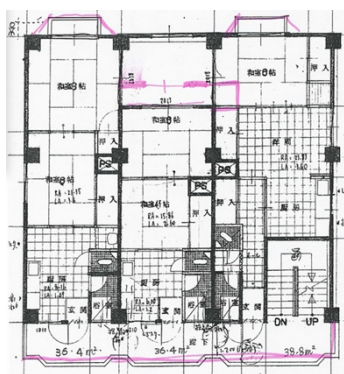


図1 改修前平面図

典型的な下町である。地下鉄・大開駅のすぐそばであり、交通の便は良い。

図1は建物の3階部分の平面図(上が南)で、図の右端(西側)の住戸が、改修対象の住戸である。

## ②課題内容

1人ないし2人の住人を前提とした賃貸の住居とする。各自、この建物の立地条件等を十分に考慮した上で、「ここならこういうものを志向する層は必ず一定数いるはずだ」と確信する何らかのライフスタイル、住まいへの要求、居住者の年齢層等を想定し、それに相応しい空間デザインを詳細に提案してほしい。家賃およびそれと深い関係にある工事費についても考えること。

### 2-1-2) 学生による提案の内容

最優秀作品として選ばれたのは、久木楓の「tiny space」と名付けられた提案であった。住戸面積は  $36.68 \text{ m}^2$  と小規模で1人～2人の住人が前提であるため、間仕切りを少なくした提案も多かった一方で、久木の提案では、玄関からバルコニーに至る主動線の両側に、極限ともいえるまでの小さなスペースを配置し、しかも上限二段に積み重ねるという、斬新な空間構成がなされていた。

各部分の寸法が、実用に適した大きさなのかを検証し



図2 学生案平面図

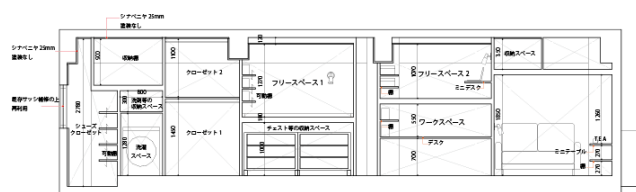


図3 学生案断面図

たところ、すべて問題ないことが確認され、既存のワンルームマンションとの顕著な差別化を図れることもあり、この作品を実現案として採用することになった。

### 2-1-3) 実現にあたっての調整と成果

課題作品として提出された時点で、細部に至るまでの検討が十分になされていたことから、実施設計で修正が必要になる部分は少なく、排水管との接続を考慮しての洗濯機置き場の位置変更、コストと施工性を考慮しての床と曲面壁の仕上材の選定などが主な修正事項で、学生



図4 通路両側に配置された多くの小空間

提案を、ほぼそのまま実現することができた。

なお、この作品を2015年のグッドデザイン賞に応募することになり、その際、この作品の社会的な意義をより明確に示すことができるよう、タイトルを「都会で暮らす私のための小さくて大きな「秘密基地」」とつけ直した。なお、審査の結果、この作品は見事に2015年のグッドデザイン賞を受賞することができた。

当該部門の審査委員は、古谷誠章、篠原聡子、中村拓志、松村秀一の4名で、評価コメントは以下の通りであった。

「築40年を過ぎた賃貸マンションの一室を改修したプロジェクトである。従来の集合住宅はnLDK型と呼ばれる個室とLDKの集合体として空間設計がなされてきたが、1人に一室を条件化したプランが住み手の数を限定し、少子化を誘導してきた。この計画では随所にロフトとも隠れ場所とも言えるプライベートなスペースが積層されており、住人が増えても吸収できるようなゲッター的な空間構成が実に多様で豊かな雑居性を作り出している。」<sup>1)</sup>

## 2-2) 作品番号 02 : 2015 年度課題作品

### 2-2-1) 課題概要

課題タイトル：「賃貸マンションの住リノベーション」

指導教員：専任／花田佳明 非常勤講師／畑友洋（畑友洋建築設計事務所）・小池志保子（大阪市立大学准教授）

期間：2015 年 9 月 22 日～12 月 15 日

#### ① 対象建物

神戸市須磨区妙法寺に建つマンションである（神戸市須磨区妙法寺トン松 408-29 ベルトゥリー須磨）。鉄筋コンクリート造・地上 5 階建て・全 35 戸の中規模マンションで、神戸市営地下鉄・妙法寺駅から北へ徒歩約 10 分の位置にあり、周囲はマンションや戸建て住宅が並ぶ住宅地である。今回は、その 2 階にある 3LDK の住戸（約 60 m<sup>2</sup>、現在空室）の改修案の作成が課題である。

#### ②課題内容

対象とするマンションは、1970 年代から入居が始まった「須磨ニュータウン」と呼ばれる住宅地の一角にある。近くを神戸市中心部への地下鉄や有料道路が走る立地と

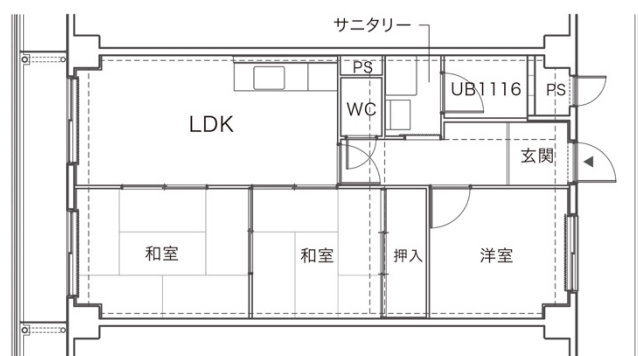


図 5 対象住戸の改修前平面図



写真 1 改修対象住戸のあるマンションの外観

いい、3LDK（賃貸）という規模といい、若い核家族をターゲットにした現代の日本における最も平均的かつ典型的な住空間である。一方、人口減少や高齢化という現象の中で、そのような計画はさまざまな問題に直面しているが、このエリアとこのマンションも例外ではない。実際、このマンションにも、当初の意図とは異なりさまざまな人々が住んでいる。社会的状況の変化の前で、家族像や生活像は多様化せざるを得ないし、すでにそうなっている。そこで本課題では、かつて設計された標準的な住空間が、これからの時代において新たな存在価値をもつとしたらどのような空間であるべきかを考え、その改修案を示してほしい。

なお、実際に施工し賃貸物件とすることが前提なので、設計密度と図面は実施設計レベルの内容が求められる。工事費用は約 500 万円が予定されている。

### 2-2-2) 学生による提案の内容

最優秀作品として選ばれたのは、坂上みなみの「すみごち」と名付けられた提案であった。

改修前の 2 つの和室と 1 つの洋室を囲んでいた間仕切



り壁をすべて撤去し、代わりにさまざまな形の家具を各所に配置して、それらに取り囲まれる多様で個性的な多くの場所を生み出した。既存の nLDK 型に替わる、一般性を持ちうる新しい住戸の型の提案となっていることから最も高く評価され、これを実現案とすることになった。

### 2-2-3) 実現にあたっての調整と成果

この作品も、課題作品として提出された時点での完成度が非常に高く、実施設計で修正が必要になる部分は少なく、学生案がほぼそのままの形で実現された。2016 年のグッドデザイン賞に応募するにあたって、タイトルを「n/f LDK: へやのかずは私が決めるのよ!」とし、これが従来の nLDK 型の n の部分に可変性を与える画期的な提案であることを、わかりやすく示した。審査の結果、この作品も見事に 2016 年のグッドデザイン賞を受賞することができた。

当該部門の審査委員は、手塚由比、石川初、長坂常、日

野雅司、松村秀一、Gary Chang の 6 名で、評価コメントは以下の通りであった。

「シナ合板で統一されたインテリアが非常にきれいである。壁で仕切るのではなく、家具でゆるやかに仕切ることで、連続的な空間の中に多様な場を作ること成功している。狭い空間ながらも、住む楽しさが感じられる住居になっていると思う。」<sup>2)</sup>

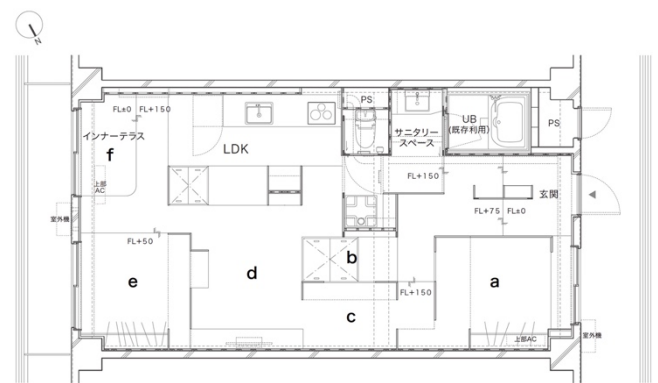


図 6 改修後平面図



図 7 平面図とさまざまな場所

## 2-3) 作品番号 03 : 2016 年度課題作品

## 2-3-1) 課題概要

課題タイトル:「量産型戸建て住宅のリノベーション」

指導教員:専任/花田佳明 非常勤講師/魚谷繁礼(魚谷繁礼建築研究所)・小池志保子(大阪市立大学准教授)

期間:2016年9月22日~12月22日

## ①対象建物

対象とする建物は、住宅メーカーが標準的な構法によって大量に供給した戸建て住宅である。中央に半間幅の十字形の部分があり、そこを階段や廊下とすることで、1・2階とも概ね4つのゾーンに分割されている。1階には玄関、台所等の水回り、ダイニング、洋室があり、2階には6畳の和室が3室と洋室が1室ある。いわば4LDKの万能型プランであり、夫婦と2~3人の子供が暮らせる間取りである。高い崖の上にあり、駐車スペースもなく道路からのアクセスは不便であるが、眺望はよく、2階からは海が見える。



写真2 改修前外観



写真3 内部解体時の様子



図8 改修前平面図

## ②課題内容

この住宅の改修方針については特に指定しない。立地条件、社会状況、工事予算、賃貸住宅としての可能性などを十分に考慮し、皆さんから提案してほしい。

なお、実際に施工し賃貸物件とすることが前提なので、設計密度と図面は実施設計レベルの内容が求められる。また、工事費用は800万円の予定である。その範囲に収まる設計をしてほしい。したがって、また法的な制約もあり、既存の構造体への大規模な改変は想定していない。

## 2-3-2) 学生による提案の内容

最優秀作に選ばれたのは山門久晃の案「PLACES」である。1階では、中央に蔵のようなフリースペースを設け、その回りに廊下を配して動線を長くした。2階では、床全体に1間×2間、または半間×2間で鉄筋ブレースがあるが、そこにひとつ飛ばしで吹き抜けを設け、個室の間に距離感を生み出した。その結果、外観も構造も階段の位置も変えてないが、元の住宅とは対照的な距離感と空間性、そして個を尊重した平面計画が実現した。この案は、特徴のない量産型住宅から全く別の可能性を引き出したリノベーションであると高く評価され、実施案に採用された。

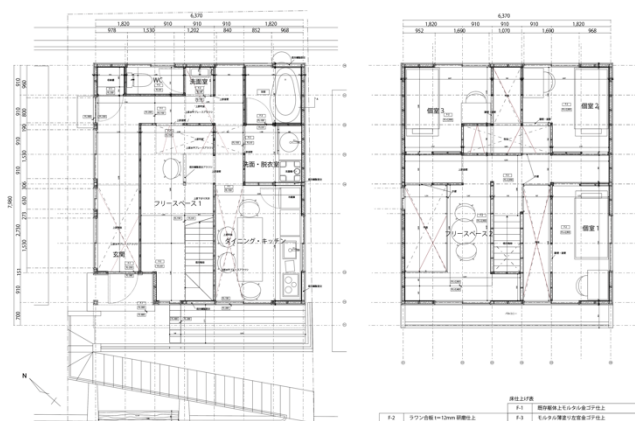


図9 学生案平面図

## 2-3-3) 実現にあたっての調整と成果

実施設計にあたって、学生案の空間構成はそのまま生かしつつ、一部の吹き抜けについては、垂直方向の空間の連続性は保ちつつも実用性を両立させるために、グレーチングの床を設置した。また、2階の窓の外側に安全のために手摺を設置した。

施工時期との関係から、グッドデザイン賞への応募は、





写真4 構造体と吹抜けのあるダイニングと通路

翌々年の2018年におこなった。タイトルは「石垣の上に建つ鉄骨の家」と、その立地環境の特性をダイレクトに伝えるものとした。審査の結果、この作品も見事に2018年のグッドデザイン賞を受賞することができた。

当該部門の審査委員は、仲俊治、小見康夫、手塚由比、柄澤麻利の4名で、評価コメントは以下の通りであった。

「量産型軽量鉄骨住宅のもつ、骨格の強さを上手く活かしたリノベーション。あえて軽量鉄骨フレームを見せるべく設けられた吹き抜けや間仕切壁により、新築では成し得ない魅力のある空間が生み出されている。赤く塗られた古い鉄骨と挿入された新しい木質壁の対比が独特な表現となっており、この住宅を特徴付けている。また、古いまま残された外観からは想像し得ない、開放的な内部空間が実現されている点も高く評価したい。このような良質なリノベーションにより、ストック住宅の再生・活用が促進されることを期待させるプロジェクトである。」<sup>3)</sup>

#### 2-4) 作品番号04：2017年度課題作品

2017年度からはカリキュラムの変更により、本課題は新たな授業科目「リノベーション総合実習」の中で実施されることになった。

##### 2-4-1) 課題概要

課題タイトル：「賃貸マンションの住戸リノベーション」

指導教員：専任／花田佳明 非常勤講師／榊原節子(榊原節子建築研究所)・今津修平(Muff)

期間：2017年9月21日～12月19日

##### ①対象建物

リノベーションを行う対象の建物は、2014年の課題の改修対象であったのと同じ、神戸市兵庫区の建物である。地上5階建ての中規模マンションで、1階は事務所として使われ、2階から上に12室の賃貸住戸がある。2014年の

際は、3階西端の301号室が対象であったが、今回は5階東端の503室についての改修提案がもとめられた。

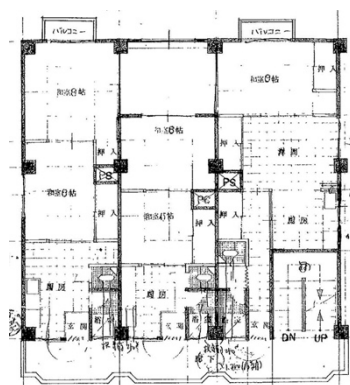


図10 改修前平面図

図10は建物の5階部分の平面図(上が南)で、図の左端(東側)の住戸が、改修対象の住戸である。

##### ②課題内容

1人ないし2人の住人を前提とした賃貸住居とする。この建物の立地条件等を十分に考慮した上で、「ここならこういうものを志向する層は必ず一定数いるはずだ」と確信できる何らかのライフスタイル、住まいへの要求、居住者の年齢層等を想定し、それに相応しい空間デザインを詳細に提案する。このマンションは順次住戸のリノベーションを行い、最終的には「すべての住戸のデザインが違う賃貸マンション」をめざしている。

なお、実際に施工し賃貸物件とすることが前提なので、設計密度と図面は実施設計レベルの内容が求められる。また、工事費用は約500万円の予定である。その範囲に収まる設計をしてほしい。法的な制約もあり、既存の構造体への大規模な改変は行わないこと。

##### 2-4-2) 学生による提案の内容

最優秀作に選ばれたのは足立明日香の案である。細長い空間の真中に、その中央部分の一部が回転する一枚の壁を立てるだけという最小限の方法によって、その周囲の空間を生活に必要なさまざまな場へと分節するアイデアが秀逸である。また、東側角部屋という条件から東面に開口部が多く光もそちらから入ってくるが、その光の状態を、窓際に吊られた薄いカーテンと、中央の壁と窓側の

壁の間の反射とによってコントロールし、室内に滲ませていくという操作も興味深い。小さな住戸を持つ空間的な特徴を、繊細な建築的操作によって魅力的なものへと変身させた素晴らしい提案といえる。

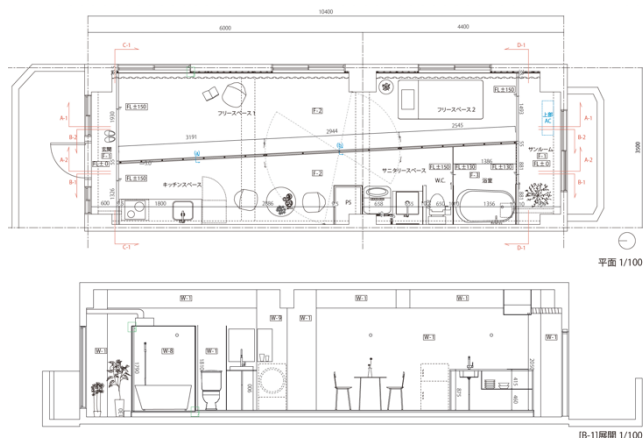


図 11 学生案平面図（上）と断面図（下）

### 2-4-3) 実現にあたっての調整と成果

実施設計にあたっては、天井高よりも低い斜めの壁を自立させるための構造的な工夫と、中央部分を回転させるための機構の考案に力が注がれた。回転壁の中心軸の位置を既存柱の位置と揃えることで、両者をうまく納める工夫もなされた。中央の斜め壁の仕上げ材料を何にするかが、難しい判断であったが、実物見本を作成して比較検証した結果、光の拡散効果による空間の時間的な変化がもっとも期待できる、溶融亜鉛メッキ鋼板を用いることに決定した。

グッドデザイン賞への応募にあたっての作品名は「光

の粒子と暮らす箱」とした。360度回転する中央部の壁によって空間の分節が制御され、これに東側の開口部から薄いカーテンを通り抜けた光が当たり、仕切壁の両面で反射・拡散され、天候や時間によって光の状態が異なる場が住戸内に現れる。これらの仕掛けが、住人の様々な生活行為、来客対応、仕事の場の創出などの機能的要求に対応できる多様な場所を生み出すのである。光の変化や壁の位置の違いによる空間の変化をわかりやすく示すため、今回の応募にあたっては、その様子を撮影した動画も作成し、補足資料として提出した。

審査の結果、この作品も見事に2018年のグッドデザイン賞を受賞することができた。当該部門の審査委員は、仲俊治、小見康夫、手塚由比、柄澤麻利の4名で、評価コメントは以下の通りであった。

「賃貸マンションの改修として非常にユニークである。たった1枚の斜めの壁を住戸内に挿入することで、まったく雰囲気の異なる部屋を作り出している。壁の質感もユニークで高さも絶妙だ。壁の中央部が回転することで、多様な使い方が出来るようになっているのも面白い。ワンルームマンションの可能性を広げる提案として、高く評価出来る。」<sup>4)</sup>

### 2-5) 作品番号 05 : 2018 年度課題作品

#### 2-5-1) 課題概要

課題タイトル：「賃貸マンションの住戸リノベーション」



写真 5 玄関から壁の両側を見る

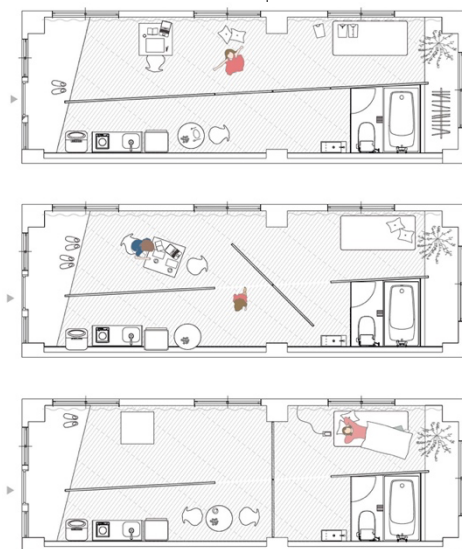


図 12 壁の位置で変化する生活シーン

#### 「のびのび」

長く広い空間を存分に使い、のびのびとデスクワークや家事をこなす。壁の両側にある2つの空間の光の状態の差が、気持ちの切り替えにもつながっていく。



#### 「てきぱき」

回転壁を回すことで、住戸の中にパブリックな空間を作り出し、来客との打ち合わせをてきぱきとこなす。住戸の中に、不思議なオフィス空間が誕生する。



#### 「すやすや」

回転壁を閉じ、静かな閉じた空間ですやすやと眠る。窓の向こうに見える都会の光とともに、夢の中へ潜り込んでいく。





指導教員：専任／花田佳明 非常勤講師／榊原節子  
(榊原節子建築研究所)・今津修平 (Muff)

期間：2018年9月20日～12月20日

### ①対象建物

対象建物は、神戸市須磨区に建つ賃貸マンションである(住所：神戸市須磨区神撫町4-6)。山手の住宅地の中に建つ、鉄筋コンクリート造の地上3階建て中規模賃貸マンションだ。敷地が前面道路からほぼ1階分下がっている。そのため、入り口は2階にあり、1、2階それぞれに5つの住戸、3階には3つの住戸とテラスがある。今回は、そのうちの1階の2室(102号室と103号室)の改修案の策定が課題である。

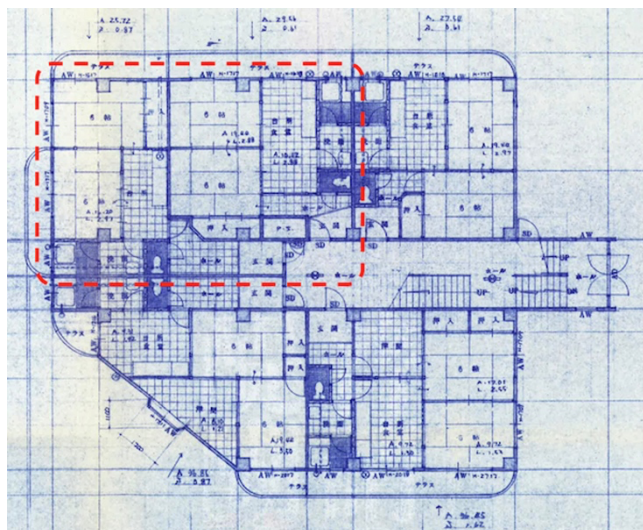


図13 改修前平面図(点線内が今回の改修対象)

### ②課題内容

1階の2室(102号室と103号室)を一体的に改修し、さまざまな家族形態、生活形態、賃貸形式に対応できる構成の賃貸住戸へと改修する。なお、実際に施工し賃貸物件にすることが前提なので、設計密度と図面は実施設計レベルの内容が求められる。また、工事費用は700万円の予定である。その範囲に収まる設計をしてほしい。法的な制約もあり、既存の構造体への大規模な改変は行わないこと。

#### 2-5-2) 学生による提案の内容

最優秀作に選ばれたのは紺谷和弥の案「じんむ食道」である(図14)。基本的には2住戸をゆったりした1住戸へ変更する案だが、最大の特徴は、ほぼ元の1住戸分のスペースを、厨房を中心に大きなコの字型カウンターが

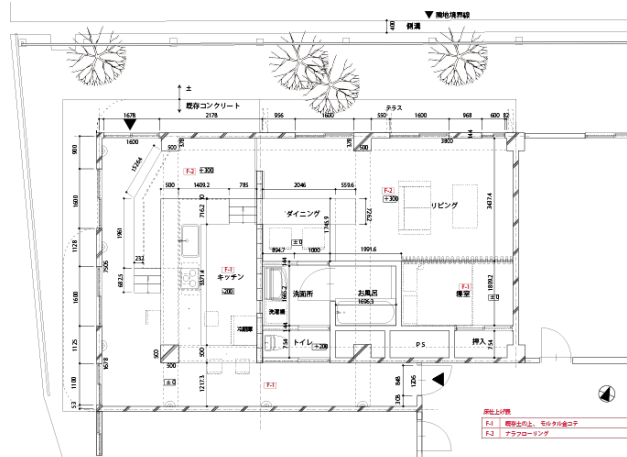


図14 学生案平面図

巡る場所に行っていることだ。作者はそこを、マンション内や地域の人々が食事、雑談、あるいは簡単な仕事などをして来る場所にしたいと考えた。また、道路→マンションの玄関→階段→廊下→改修対象住戸の玄関→前記のスペース→住戸北側の外部空間→新設階段→道路というU字型のルートを作ることも提案した。厨房まわりのスペースを空間的に地域につなげようという発想だ。建物の所在地名と食堂からの造語である「食道」とを組み合わせた「じんむ食道」というタイトル通り、道の一部にある食堂のような住まいとすることで、地域との連続的な関係を作ろうとする姿勢が高く評価された。

#### 2-5-3) 実現にあたっての調整と成果

実施設計にあたっては、賃貸を容易にするための多様な使い方を受け入れられるようなプランニング上の柔軟性の向上、室内の段差の解消、等を考慮しつつ、発案者である学生と共に、さらに検討を重ねて原案を修正した。内部のブロック造の壁に新設する開口部の扱いや、壁・天井

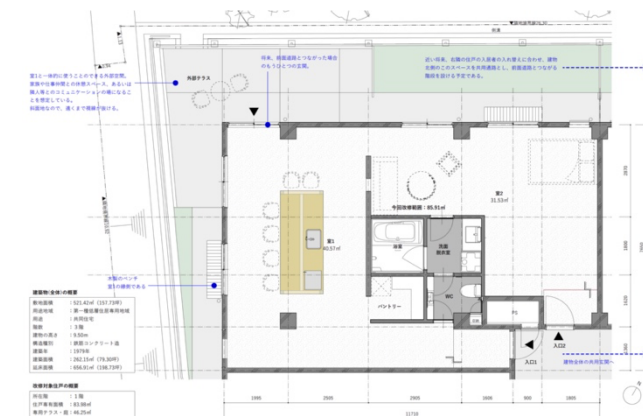


図15 改修後平面図

の仕上げ材についても、意匠性と共にコストや断熱性能を考慮しつつ、決定を行なった。結果として、学生案のコンセプトは守りつつ、より現実的で洗練された改修デザインとして、とりまとめることができた。



写真6 キッチン内観

グッドデザイン賞への応募にあたっての作品名は、わかりやすさを重視して、「神撫町キッチン」とした。

審査の結果、この作品も見事に2020年のグッドデザイン賞を受賞することができた。当該部門の審査委員は手塚由比、小見康夫、千葉学、山崎健太郎の4名で、評価コメントは以下の通りであった。

「増加する不動産ストックに対して、どのようにリノベーションを行うか、多くの設計者が知恵を絞らなければならない。この計画では、リノベーションにあたって、2住戸を1住戸として改修を行っているが、与えられた物件や条件を丁寧に読み取り、実に多様な住まい方のイメージを与えている。回遊性は面積以上の広がりを感じさせ、外部環境を取り込んでいるあたりも小さい操作ではあるが、効果は劇的である。これをお手本に建物全体が多様な生活の集合体へと変化していったら面白い。」<sup>5)</sup>

## 2-6) 作品番号 06 : 2019 年度課題作品

### 2-6-1) 課題概要

課題タイトル:「賃貸マンションの住戸リノベーション」

指導教員: 専任/花田佳明 非常勤講師/榊原節子 (榊原節子建築研究所)・今津修平 (Muff)

期間: 2019 年 9 月 24 日～12 月 24 日

### ①対象建物

改修対象は、2014 年、2017 年の課題対象と同じ賃貸マンションの中の3階、東端の301号室である。中央の302号室は2014年、303号室は2015年に改修が行われているので、本課題の結果で改修が行われれば、同じ階に3つの個性的な住戸が並ぶことになる。

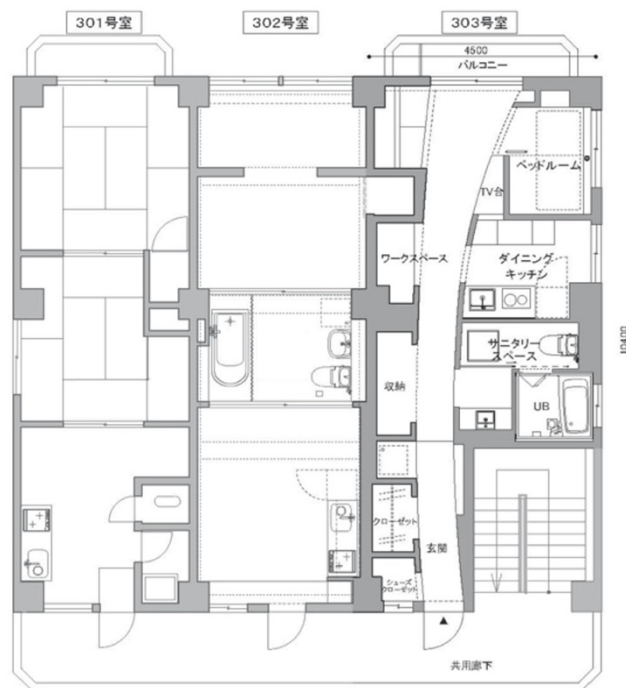


図16 改修前平面図（左端が今回の対象、中央と右端の住戸は改修済）

### ②課題内容

前々年度と同じ建物内の異なる住戸であり、課題の内容は、階数の違い等による環境条件が異なること以外は、2017年度と同様である。住戸の改修についての工事費用も、前々年度と同じ約500万円の予定であることが示された。

### 2-6-2) 学生による提案の内容

従来、実現案の選定は、授業の課題作品としての評価とは別に、事業主体である大和船舶土地株式会社を交えた選考会で行ってきた。前年度までは、いずれも授業としての評価が最上位であった作品と、実現可能性を検討した上で選んだ実施案とが、結果として一致していたが、今年度は、不動産事業としての観点から、同じ建物内の他の改修済住戸との差異がより明確で、一定の賃貸需要の存在の見通しをつけやすい、末藤真央の作品「仄のすみか」が

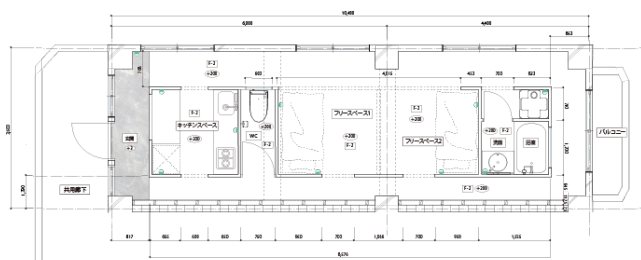


図 17 学生案平面図

実施作として選ばれた。

この作品の主な特徴は以下の通りである。

- ・対象マンションにおいてこれまでに実現してきたどの住戸プランタイプとも違い、3階端部という位置にもふさわしい独自の案になっている。
- ・ボックス・イン・ボックスというアイデアが住まいの中に一種の物語性を生み出しており、新たな借り手を発掘する可能性がある。

#### 2-6-3) 実現にあたっての調整と成果

実施設計にあたっては、実用性を重視して、中央部分のフリースペース（室1と室2）部分に可動間仕切りを設置し、入居者が使い方に応じて個別に開閉できるようにした。また、使用音が気にならないよう、トイレをこれらから離して配置した。さらに、洗濯機置場をバルコニー脇のバックヤードに移動し、明るい家事スペースとして活用できるようにした。

グッドデザイン賞への応募にあたっての作品名は、空

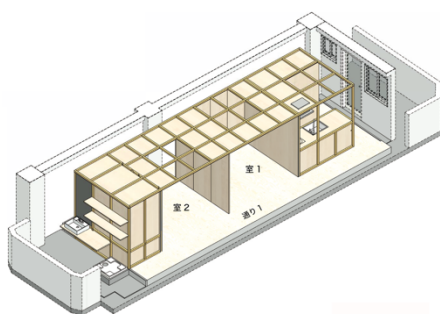


図 18 実施案アイソメトリック図

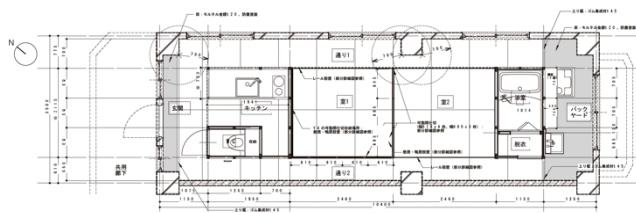


図 19 実施案平面図



写真 7 左：キッチンスペース、右：通路と室 1

間構成上の特徴を示すものとして「あいだ（隙）のあいだ（間）」とした。審査の結果、この作品も見事に 2021 年のグッドデザイン賞を受賞することができた。当該部門の審査委員は、藤原徹平、網野禎昭、千葉学、手塚由比の 4 名で、評価コメントは以下の通りであった。

「築 48 年の賃貸マンションの改修法として、一部屋ずつ大学の課題に出すことでその最優秀案を実現させるという取り組みがまず面白い。5 戸目の改修になるそうだが、一つ一つが異なるので最終的に多様な住戸の集合となるのが楽しみである。今回の物件では玄関とバルコニー側に設けられた 2 つの水回りの間を、状況に応じて間仕切り方を変えられるようにしている。構成が非常に明確で評価された。躯体、設備スペース、インテリア部分の分節も明快で好感が持てる。」<sup>6)</sup>

#### 2-7) 作品番号 07：2020 年度課題作品

##### 2-7-1) 課題概要

課題タイトル：「賃貸マンションの住戸リノベーション」

指導教員：専任／花田佳明 非常勤講師／今津康夫（ninkipen）・今津修平（Muff）

期間：2020 年 9 月 29 日～12 月 22 日

##### ①対象建物

改修対象は、2014 年、2017 年、2019 年の課題対象と同じ賃貸マンションの中の 4 階、中央の 402 号室である。本課題の結果で改修が行われれば、学生案を実現した改修住戸 3 戸と建築家（安田利弘氏）による改修住戸 2 戸に加え、12 の住戸のうちの半分以上が、個性的な住戸に生ま



れ変わることになる。

## ②課題内容

課題の内容は、階数の違い等による環境条件が異なること以外は、2014年度、2017年度、2019年度と同様である。住戸の改修についての工事費用も、前年度と同じ約500万円の予定であることが示された。

### 2-7-2) 学生による提案の内容

最優秀に選ばれたのは、大和明日香の「うちの中の外」であった。コンクリートスラブに「三和土」状にできる素材を塗り、床を「土」とする提案である。南北の窓からしか外が感じられないので、それなら住戸内部を「外部」にしてしまおうという発想だ。そこに、ポリカーボネートパネルに囲まれた浴室や寝室を収めた箱や流しを設け、あたかも畑の中に置かれた作業場のような開放的風景を生み出している。中を外とする発想が、この位置にある住戸ならではの評価された。

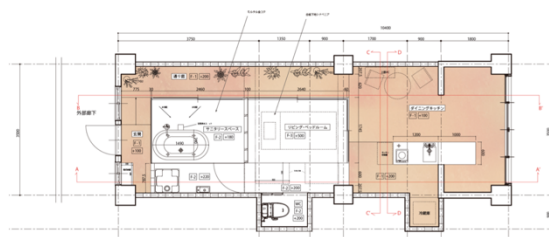


図 20 学生案平面図

### 2-7-3) 実現にあたっての検討結果

実現候補案としては、この案が採択され、実施設計の段階まで進んだのだが、残念ながら事業者側でさまざまな検討が行われた結果、賃貸物件として成立させる見通しが十分に立たなかったことから、最終的には実現がかなわなかった。

### 2-8) 作品番号 08 : 2021 年度課題作品

#### 2-8-1) 課題概要

課題タイトル:「賃貸マンションの住戸リノベーション」

指導教員:専任/花田佳明 非常勤講師/今津康夫 (ninkipen)・今津修平 (Muff)

期間:2021年9月21日~12月21日

#### ①対象建物

改修対象は、2014年、2017年、2019年、2021年の課

題対象と同じ賃貸マンションの中の5階、西端の503号室である。

## ②課題内容

課題の内容は、階数の違い等による環境条件が異なること以外は、2014年度、2017年度、2019年度、2020年度と同様である。住戸の改修についての工事費用も、前年度と同じ約500万円の予定であることが示された。

### 2-8-2) 学生による提案の内容

最優秀に選ばれたのは、森川明花の「繰合の日常」であった。2つの開口部を持つ壁を対角線的に1枚立てただけのシンプルな構成である。小さな住戸の中に複数の世界が交錯する不思議な状態が生まれており、この空間での豊かさを誘発するデザインであることが評価された。

### 2-8-3) 実現にあたっての検討結果

事業者を交えた実現案の選考過程において、前年度に引き続き、この案も賃貸物件として成立させる見通しが十分に立たないという判断がなされ、実施設計を行う段階へと進めることができなかった。

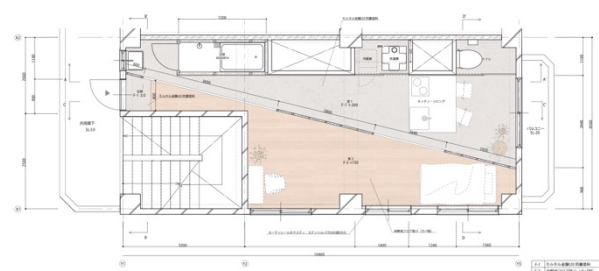


図 21 学生案平面図

### 2-9) 作品番号 09 : 2022 年度課題作品

2021年度をもって、本授業科目を担当してきた花田が本学を退職したのにもない、2022年度からは、川北が専任教員として、本課題を担当することになった。

#### 2-9-1) 課題概要

課題タイトル:「賃貸スペースのリノベーション」

指導教員:専任/川北健雄 非常勤講師/今津康夫 (ninkipen)・今津修平 (Muff)

期間:2022年9月20日~12月22日

#### ① 対象建物

今回のリノベーション課題の対象は、神戸市東灘区に建つ賃貸マンションである(東灘区岡本3丁目11、



BELLTREE 岡本)。建物は地上3階建RC造で、1階には駐車場・駐輪場と3戸の事務所があり、2階と3階には各階に4つの住戸がある。本課題では、それらのうち、1階にある1戸の貸事務所の改修デザインを提案する。建物が立地する東灘区岡本地区は、JR 摂津本山駅、阪急岡本駅を中心に、駅前商店街とそれを取り囲む住宅地で構成されている。また、有名私立大学のキャンパスも複数存在し、利便性と住みやすさの両方を備えた、阪神間でも人気の高いエリアのひとつとなっている。

## ②課題内容

新型コロナウイルス感染症の拡大はライフスタイルの変化を加速し、テレワークの普及と新たな職域の誕生は働き方の多様化をもたらした。就業場所としての大都市、居住場所としての郊外住宅地、といった地域間の機能分担が不明確なものとなり、建物の使い方にも変化が現れている。アフターコロナの時代には、住宅と小規模な事務所、店舗、工房等の組み合わせなど、単純な用途分類におさまらない、多様な事例の増加が予想される。

このような状況と、対象の建物の立地条件とをふまえ、新しい時代にふさわしい、賃貸スペースの使い方と、それを可能にする改修デザインを提案してほしい。

### 2-9-2) 学生による提案の内容

最優秀作に選ばれた河部花梨の作品「緑いろどり」は、周辺環境を丁寧に読み取り、南面開口部から接地バルコニー越しに見える隣地の緑、といった対象物件特有の条件を最大限に生かした提案となっている。ベッドやクローゼット、水回り、といった生活を支える要素は簡潔に両脇に納められ、キッチン以外にはほぼ何もないがらんと

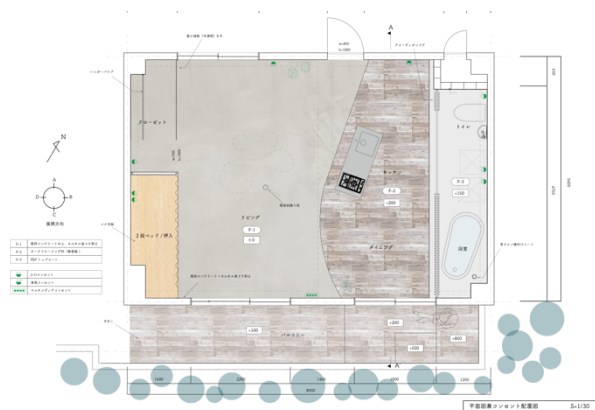


図 22 学生案平面図

した空間は、そこを拠点として多彩な活動を展開可能な、住まいの概念を拡張する自由度の高い場を提供している。

### 2-9-3) 実現にあたっての調整と成果

実施設計の過程で大きく変化したのは、キッチンと床の扱いである。原案では、主スペースの床は土間部分と板張部分に二分され、板張部分の端にキッチンを配置する案となっていたが、実現案では主スペースの床をすべて土間として、キッチンを他の水回りと近い部屋の角に移動した。このことにより、設備配管が容易になり、主スペースの使い方の自由度が大幅に向上することになった。また、全面を土間とすることで、主スペースと外部との連続性が高くなり、一方で、東側の浴室・トイレ等と、西側の就寝スペースとクローゼット等のみが、生活に必要な機能を納めた内部空間として、その意味を対比的に示す、より明快な構成が実現されることとなった。

この作品もグッドデザイン賞への応募を行い、2024年7月20日現在、第1次審査を通過した段階である。作品名は、新たな賃貸ニーズを示すものとして、「創造拠点としてのスタジオ住居」とした。居住機能を確保しつつ、何らかの目的で訪れる来訪者を無理なく受け入れることのできる空間を提供することで、社会性の高いライフスタイルの実現を支援できればと願っている。



写真 8 内部からバルコニー方向を見る

### 2-10) 作品番号 10 : 2023 年度課題作品

#### 2-10-1) 課題概要

課題タイトル：「賃貸スペースのリノベーション」

指導教員：専任／川北健雄 非常勤講師／今津康夫 (ninkipen) ・今津修平 (Muff)

期間：2023年9月19日～12月19日

## ①対象建物

今回のリノベーション課題の対象は、神戸市長田区に建つ賃貸アパートである（長田区長尾町2丁目10-7）。建物は1960年代に民間事業者により造成がなされた住宅地にあり、北には六甲山系の西端部を形成する高取山が位置している。最寄駅となる神戸市営地下鉄および山陽電車の板宿駅は、南へ徒歩15～20分のところにある。建物は地上2階建木造で、各階に3つの住戸がある。本課題では、この建物の東端に位置する上下2戸の住戸の改修デザインを提案する。

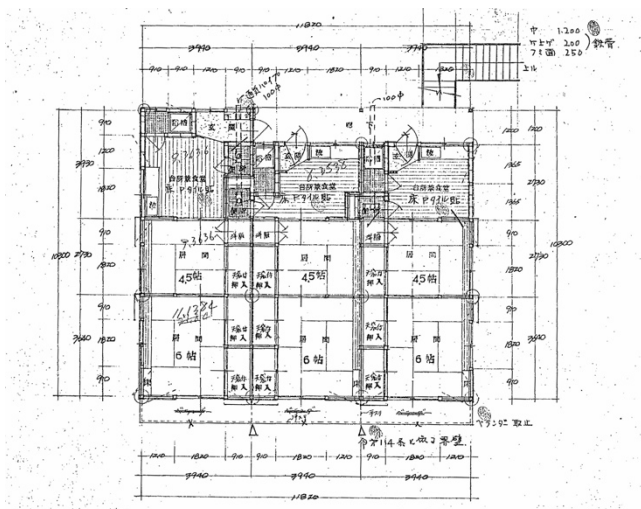


図23 改修前平面図（右端の住戸が改修対象）

## ②課題内容

求める改修提案の対象は、図23の平面図に示す1階東端の住戸と、その真上の2階東端の上下に重なる2つの住戸、ならびに通路や外構などの共用部である。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、ライフスタイルの変化を加速し、テレワークの普及と新たな職域の誕生は働き方の多様化をもたらした。就業場所としての大都市、居住場所としての郊外住宅地、といった地域間の機能分担が不明確なものとなり、建物の使い方にも変化が現れている。賃貸住宅市場においても、使われ方が必ずしも居住機能に限定されない、住宅と小規模な事務所、店舗、工房等の組み合わせなど、従来の用途分類を超えた多様化が予想される。このような社会背景をふまえつつ、周辺の環境条件も勘案して、各自で具体的な賃貸者像と使い方とを設定し、実現可能な改修提案を行ってほしい。

## 2-10-2) 学生による提案の内容

最優秀作に選ばれたのは、大山遥の「torch」であった。

この作品では、1階に3つの個室、2階に共用キッチンのあるシェアハウスが提案されている。近隣大学の学生向けの需要があり、その専門領域を考慮すると、地域連携による共用スペースの活用も可能であるという確信を抱いての提案である。日照条件で優れた2階部分を開放的に扱い、外部にも共同作業の場を設けている。

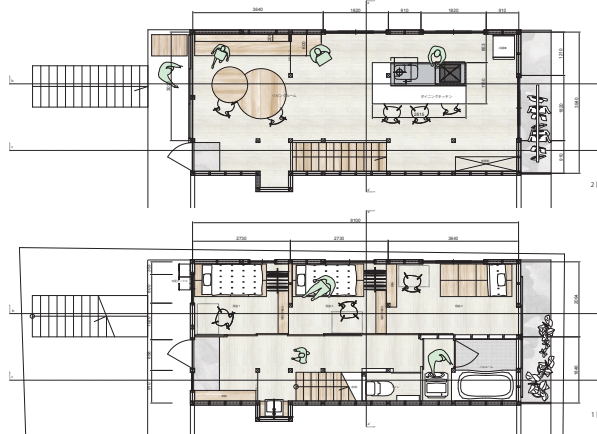


図24 学生案平面図（上：2階、下：1階）

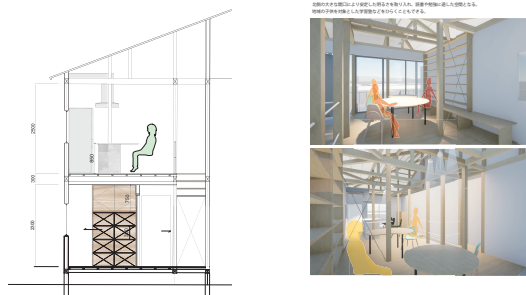


図25 学生案断面図と2階部分内観パース

## 2-10-3) 実現にあたっての調整

2024年7月時点で、本計画の実施設計は未着手で、事業化前の諸条件の整理が行われている段階である。耐震性を確保しつつ、改修コストを抑える工夫も必要となっており、学生案のコンセプトを踏襲しつつも、全体的な見直しを行うことになる可能性が高い。いずれにせよ、原案を作成した学生を交えつつ、事業者との打ち合わせを通して、引き続き具体化に向けた検討を進めていくこととしている。

### 3. まとめ

以上、2014年度から2023年度までの10年間にわたる、「住居・インテリアデザイン総合実習」および「リノベーション総合実習」の成果である、学生の課題作品をもとにした、改修デザインの実現過程を整理してとりまとめた。学生の優秀作10作品のうち7つが実現した。

このような実践的教育が可能となった背景には、事業者である大和船舶土地株式会社の理解と協力があることは、いうまでもない。そこには不動産事業を、事業収益の増大のみを目標とせず、社会的な課題の解決にも結びつけていこうとする企業理念がある。民間資産であると同時に社会的ストックでもある、既存の不動産資源を、リノベーションという方法によって、新しい時代のための地域資源として循環させていこうとする姿勢が存在する。

大学との連携は、そのような目的のための企業活動の一環であり、学生たちの自由な発想と熱意に満ちた設計作業への取り組みが、これまでの成果を生み出してきたのだといえるであろう。<sup>注1)</sup>

さらに、7つの実現作品のうち、6つがグッドデザイン賞を受賞し、残る1作品も応募中で1次審査を通過、という成果も、注目されて良いだろう。60年以上の歴史を有するグッドデザイン賞は、日本でもっとも広く知られる総合的なデザイン評価・推奨のしくみであり、そこでの審査において、学生が授業で取り組んだ作品が一定の評価を得ることは、本学のデザイン教育の質の高さの再確認でもある。学生の提案が、内部的な視点や一部の専門家だけの視点で評価されるのではなく、より広い社会的視点からも評価される機会を得ることは、これからのデザイン教育の継続的な質の向上のためにも、たいへん有効ではないかと考えられる。

### 引用文献

- 1)公益財団法人日本デザイン振興会、「GOOD DESIGN AWARD 受賞ギャラリー 2015 グッドデザイン賞 賃貸住宅（リノベーション）都会で暮らす私のための小さくて大きな「秘密基地」 審査委員の評価」、<https://www.g-mark.org/gallery/winners/9dcae9cc-803d-11ed-af7e-0242ac130002?years=2015>
- 2)公益財団法人日本デザイン振興会、「GOOD DESIGN

AWARD 受賞ギャラリー 2016 グッドデザイン賞 賃貸住宅（リノベーション）n/f LDK: へやのかずは私がきめるのよ！ 審査委員の評価」、<https://www.g-mark.org/gallery/winners/9dd70d24-803d-11ed-af7e-0242ac130002?years=2016>

3)公益財団法人日本デザイン振興会、「GOOD DESIGN AWARD 受賞ギャラリー 2018 グッドデザイン賞 賃貸住宅（リノベーション）石垣の上に建つ鉄骨の家 審査委員の評価」、<https://www.g-mark.org/gallery/winners/9df952e3-803d-11ed-af7e-0242ac130002?years=2018>

4)公益財団法人日本デザイン振興会、「GOOD DESIGN AWARD 受賞ギャラリー 2018 グッドデザイン賞 賃貸住宅（リノベーション）光の粒子と暮らす箱 審査委員の評価」、<https://www.g-mark.org/gallery/winners/9df97a04-803d-11ed-af7e-0242ac130002?years=2018>

5)公益財団法人日本デザイン振興会、「GOOD DESIGN AWARD 受賞ギャラリー 2020 グッドデザイン賞 賃貸住宅（リノベーション）神撫町キッチン 審査委員の評価」、<https://www.g-mark.org/gallery/winners/9e329bab-803d-11ed-af7e-0242ac130002?years=2020>

6)公益財団法人日本デザイン振興会、「GOOD DESIGN AWARD 受賞ギャラリー 2021 グッドデザイン賞 賃貸住宅（リノベーション）あいだ（隙）のあいだ（間） 審査委員の評価」、<https://www.g-mark.org/gallery/winners/9e5a1e58-803d-11ed-af7e-0242ac130002?years=2021>

（1）～6）の最終アクセス日 2024年7月22日）

### 注

1)これらの成果については、（一社）兵庫県建築士事務所協会・神戸支部 会誌「アプローチ」でも紹介している。

花田佳明・川北健雄、「学生作品を実現したリノベーション・プロジェクト」、『アプローチ』、No.45、2016、pp.7-12、花田佳明・川北健雄、「学生案で実現した量産型鉄骨住宅のリノベーション」、『アプローチ』、No.47、2018、pp.14-21